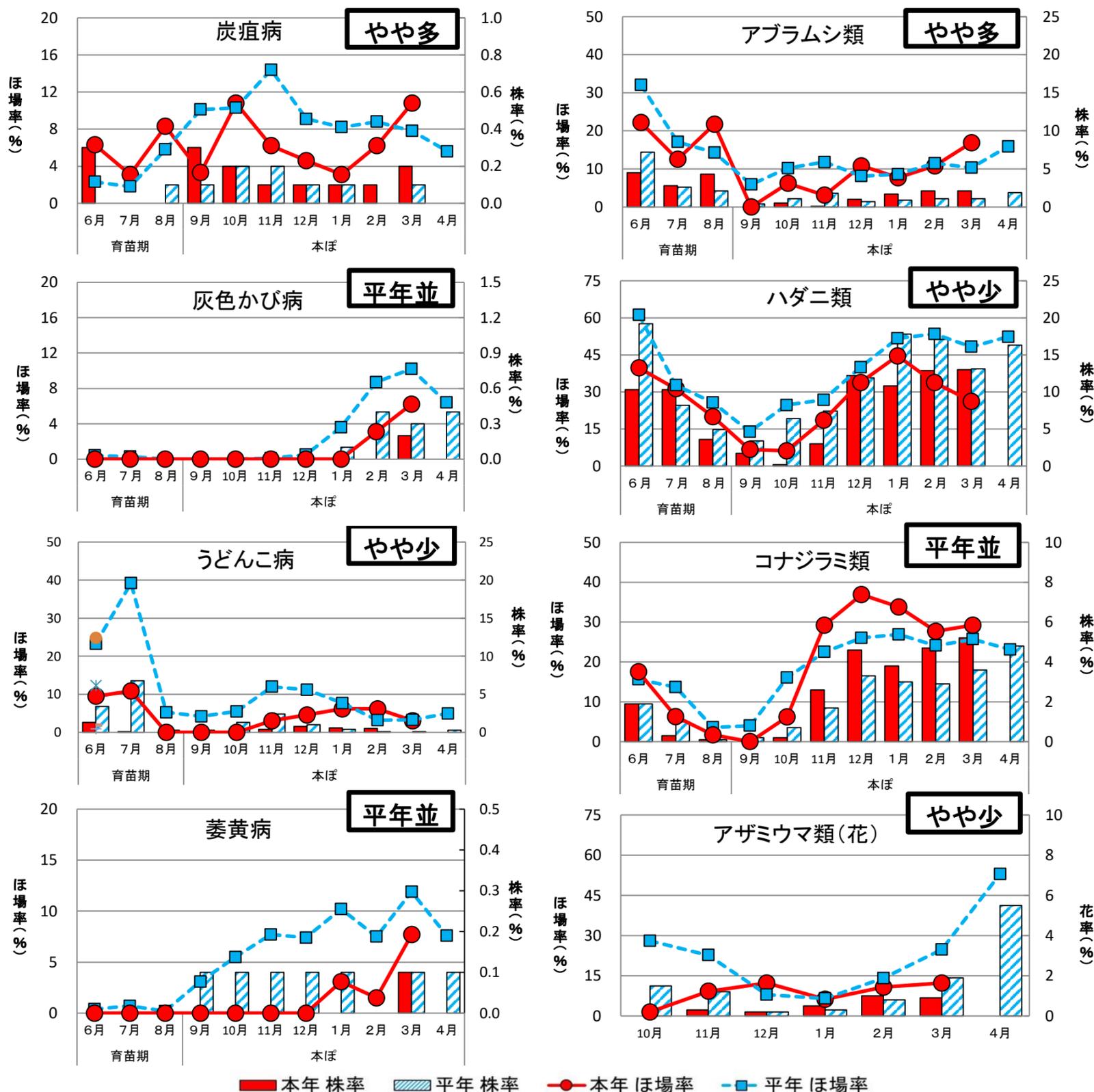


■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：65か所】



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%):発生株数/調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%):発生が確認されたほ場数/調査ほ場数

■ 今月の防除ポイント

ー アザミウマ類 ー

気温の上昇で発生が多くなる時期です！発生を認めたら防除を行いましょう！

1. 低密度のうちにベネビアOD (I:28) 等を散布する。観察した花の1割以上にアザミウマ類の寄生が見られる場合は、速やかにディアナSC (I:5, カブリダニ等の天敵に影響があるので注意する) 等を散布する。
2. 施設の開口部への防虫ネットの展張又はハウス外への光反射シートの敷設により、侵入を抑制しましょう。青色粘着トラップを設置すると、侵入状況を早期に知ることができます。
3. 同じ薬剤であってもミカンキイロアザミウマとヒラズハナアザミウマでは防除効果が異なります。また、薬剤感受性の低下を避けるため、必ずRACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

■ 今月のトピックス うどんこ病について

被害について

うどん粉をまぶしたような白色のカビによる病害です。【写真1～8】
長雨等の過湿や日照不足で軟弱徒長した株、過繁茂した株で多く発生しています。

うどんこ病が発病したつぼみでは、花卉がピンク色に変色する【写真5】ことがあります。

《葉での病徴》



写真1 葉表の病徴



写真2 葉裏



写真3 葉柄の病徴

《花・花柄・果実での病徴》



写真4
がくと果柄



写真5
花卉の変色



写真6 被害果(未熟)



写真7 被害果(成熟)

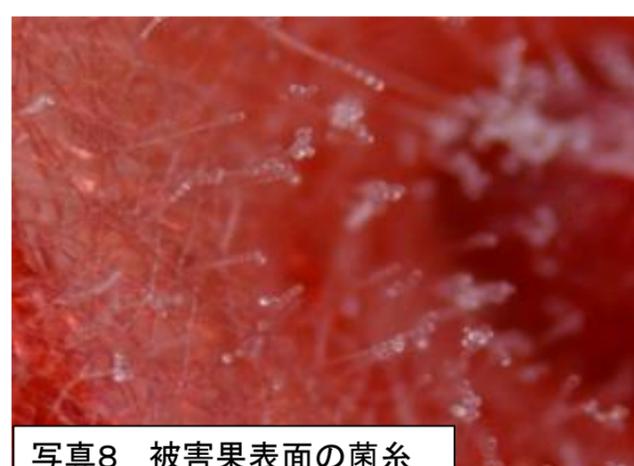


写真8 被害果表面の菌糸

防除対策について

- ・ 下葉（老化葉等）を除去し株元や花房の風通しをよくする。
- ・ 寒暖差による結露や、かん水過多にならないように注意する。
- ・ 気温上昇時は、施設内の換気を行う。
- ・ 薬剤防除は予防を主体に行う。薬剤には親和性向上のため展着剤を加え、葉裏まで薬液がよくかかるようにていねいに散布する。
- ・ 曇雨天時にはくん煙剤を使用する。硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるため、天敵導入ほ場では長時間のくん煙処理は避ける。